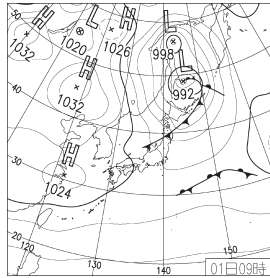


日々の天気図

—No. 214

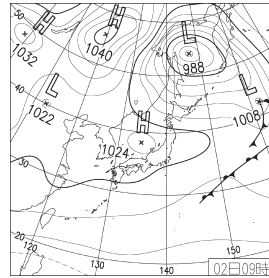
2019年11月

・19～20日、東北日本海側で暴風雪、秋田県で屋根剥離、鉄道運休等。
 ・22～23日、熱帯低気圧の接近や前線の影響により沖縄本島地方で大雨、土砂災害、道路冠水等。
 ・11月の台風発生数6個は最多タイ。
 ・東京地方の木枯らし1号発生せず。
 ・東京地方の木枯らし1号発生せず。昨年より吹かし、2年連続なしは初。
 (気象庁予報部予報課)



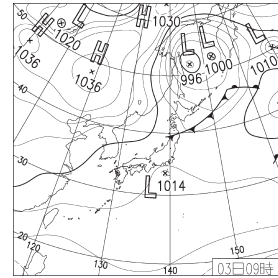
1日(金)西日本に黄砂飛来

北日本を寒冷前線が通過し、大陸から高気圧が張り出す。北陸から北海道にかけての日本海側を中心に雨。その他は概ね晴れ。帯広市イチョウ黄葉。11月の黄砂観測は9年ぶり。



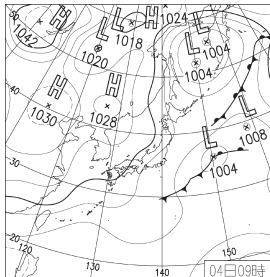
2日(土)高気圧に覆われて晴れ

移動性の高気圧に覆われて広く晴れ。気圧の谷や寒気の影響で北海道北部を中心に雨や雪。稚内で初雪。北海道沿岸で風が強く、最大瞬間風速は宗谷岬で26.4m/s。福岡などで黄砂。



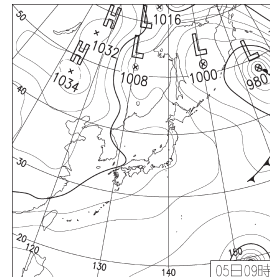
3日(日)日本付近は気圧の谷

沖縄～東日本は、はじめ晴れたが、低気圧や気圧の谷の影響により次第に曇って所々で雨。北日本は、はじめ気圧の谷の通過で雨の所も、次第に高気圧に覆われ晴れや曇りに。



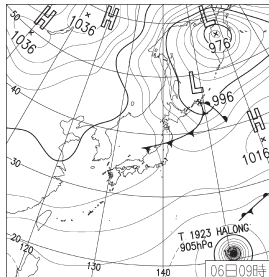
4日(月)盛岡 函館で初水

西高東低の気圧配置となって日本付近には寒気が流入。北陸以北の日本海側では雨や曇り。北日本は朝冷え込み、最低気温が12月上旬並の所も。近畿地方で木枯らし1号。



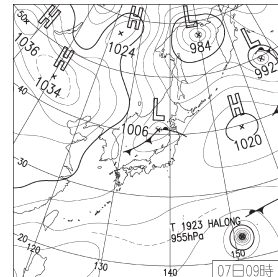
5日(火)高気圧が張り出す

大陸から高気圧が張り出し、西～東日本と北日本太平洋側は晴れ。北日本日本海側は、午前中は寒気の影響。夜は前線を伴った低気圧の接近で雨。長野で初霜。初水。月山で初冠雪。



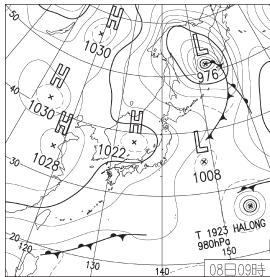
6日(水)旭川で初雪

北日本を寒冷前線が通過し、寒気が流れ込む。北陸～北日本日本海側を中心に所々で雨や雪。北海道は層雲峡で日降雪量9cm。手稲山で初冠雪。西日本でも朝は冷え込み冬日の所も。



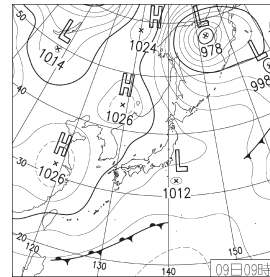
7日(木)札幌で初雪

前線を伴った低気圧が北日本を通過し、東北の日本海側と北海道は雨や雪。西日本～東日本の日本海側は寒気の影響で夜には雨。室蘭、札幌、網走で初雪。山形で初水。



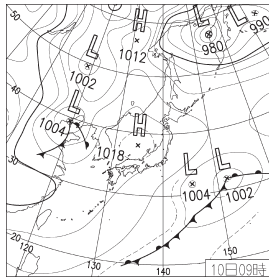
8日(金)北日本、寒気の影響続く

北日本は寒気の流入が続き、日本海側の所々で雪や雨。その他は晴れや曇り。北海道では最高気温が氷点下の真冬日の所も。函館で初雪。関東の山で初冠雪(仙ノ倉山、白砂山)。



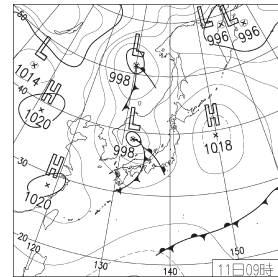
9日(土)仙台で初霜

北海道は寒気の影響が続き、日本海側を中心に雪。本州の日本海側と伊豆諸島は気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨。西～東日本の太平洋側は晴れ。風も弱く穏やかな陽気。



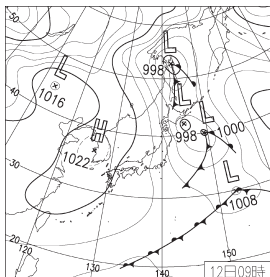
10日(日)北海道は-10℃以下に

高気圧に覆われ、全国的に晴れや曇り。上空の寒気と放射冷却の影響で冷え込み。東日本以北の159地点で冬日。北海道陸別の最低気温は-10.3℃で、今季全国初の-10℃以下。



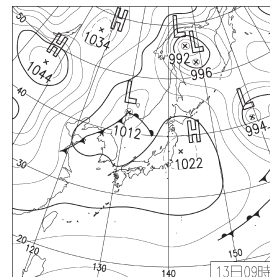
11日(月)寒冷前線通過

日本海を東進する低気圧からのびる寒冷前線が、西日本から東北を通過。各地で大気の状態が不安定となり雷を伴った雨。前線の通過後、山陰～北陸は寒気の影響で所々雨。



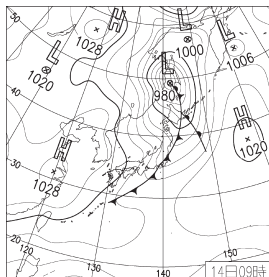
12日(火)太平洋側は晴れ

移動性高気圧が張り出し、西～東日本の太平洋側は晴れ。山陰～北陸は寒気の影響で明け方まで雨。北日本は、低気圧や寒気の影響で午前中を中心に雨。群馬県浅間山など初冠雪。



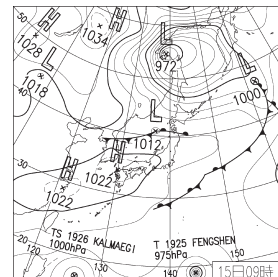
13日(水)天気下り坂

広く高気圧に覆われ午前中は概ね晴れ。高気圧が東に移動し、前線を伴った低気圧が接近した影響で次第に曇りや雨。東日本太平洋側は、気圧の谷の影響で朝から曇って雨の所も。



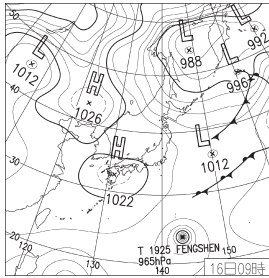
14日(木)秋田、青森、帯広初雪

間宮海峡で低気圧発達。寒冷前線が西～北日本を通過し冬型の気圧配置に。午前中は広く雨や曇り。午後は北陸以北の日本海側で雪や雨。北海道えりも岬で最大瞬間風速35.5m/s。



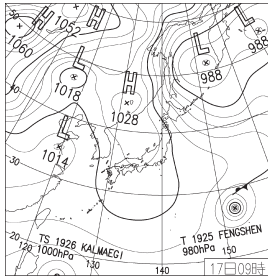
15日(金)西日本で今季初の冠雪

北日本の上空には真冬の強い寒気が流入。前線を伴った低気圧が北海道付近を通過し、北日本は雪や雨。北海道の層雲峡は日降雪量31cm。鳥取県扇ノ山で初冠雪。



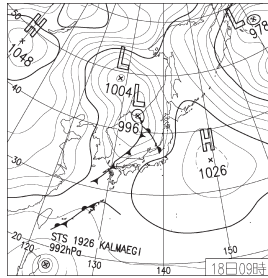
16日(土)北海道は大荒れ続く

北陸～北日本の日本海側は強い寒気により雪や雨。北海道は猛ぶきで、最高気温は宗谷を中心に1月上旬並。その他の地方は高気圧に覆われ概ね晴れ。宇都宮の初氷は関東で今季初。



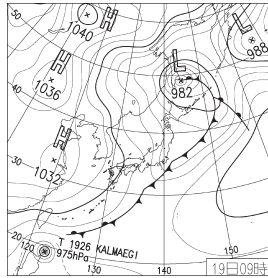
17日(日)西～東日本は概ね晴れ

西日本～東日本は移動性高気圧に覆われて太平洋側を中心に晴れ。北日本は寒気の影響で、午前中は日本海側中心に雪や雨でふぶきの所も。秋田で初霜。盛岡市カエデ紅葉。



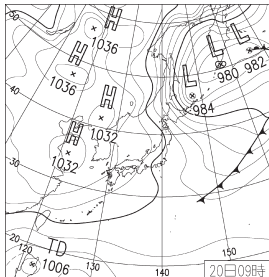
18日(月)前線通過で広く雨や雪

低気圧が日本海を発達しながら北東進。全国的に雨で北海道は雪。新潟県系魚川で27.0℃など。四国瀬戸内側や北陸では夏日となり、11月の1位を更新した所も。秋田で初氷。



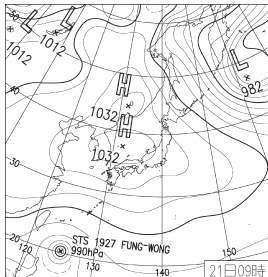
19日(火)冬型の気圧配置

朝にかけて寒冷前線が通過し、冬型の気圧配置に。北海道上空には真冬並の寒気が入り、山陰以北の日本海側を中心に雨や雪。北海道中頓別は日降雪量31cm。盛岡で初雪。



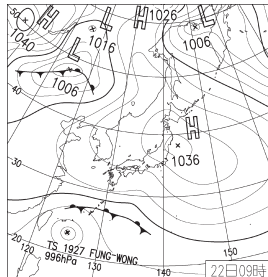
20日(水)11月5個目の台風発生

日本付近は冬型の気圧配置で、山陰以北の日本海側を中心に雪や雨。台風第27号が発生し、11月の発生数が5個に、11月の5個以上の台風発生は28年ぶり。山形で初雪。



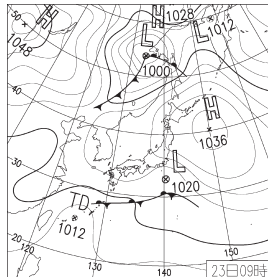
21日(木)高気圧に覆われる

大陸から東に移動した高気圧に広く覆われ、西～東日本は概ね晴れ。台風第27号が沖縄の南を北西に進み、沖縄・奄美は次第に雨。北日本の日本海側は寒気の影響で所々雪や雨。



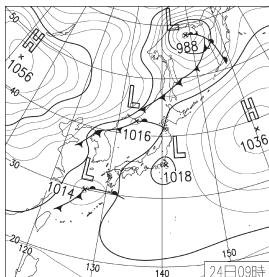
22日(金)日本の南に停滞前線

停滞前線の影響で西～東日本太平洋側は雨。台風第27号は宮古島に接近。沖縄県粟田の日降水量187.5mm、慶良間最大の瞬間風速27.8m/sは、ともに11月の1位。北陸で初霜や初氷。



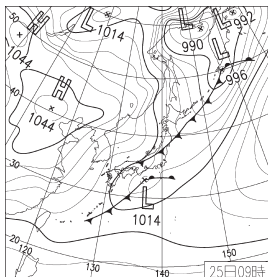
23日(土)関東で大雨の所も

西日本、北海道は高気圧に覆われ晴れ。沖縄・奄美は熱帯低気圧の影響で、関東甲信と東北太平洋側は低気圧の影響で雨や曇り。茨城県鹿嶋の日降水量131mmは11月の1位。



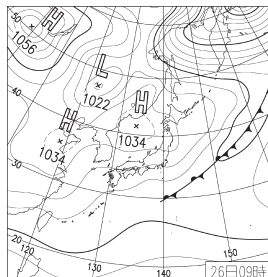
24日(日)九州で激しい雨

関東の南海上の低気圧が三陸沖に進み、関東～東北は雨だが夕方には曇りに。九州～四国は前線を伴った低気圧により雨で雷を伴う所も。鹿児島県中種子は41mm/1hの激しい雨。



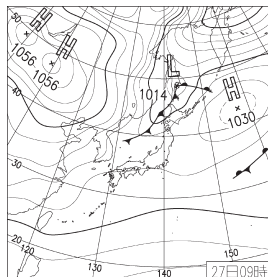
25日(月)朝の関東、広域で濃霧

低気圧や前線、上空の寒気の影響で沖縄～東北は曇りや雨。北海道は雪。朝の関東は気温の低下に伴い広い範囲で濃い霧に。釧路で初雪。広島市、松江市カエデ紅葉。



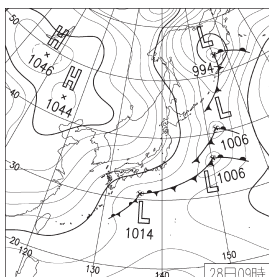
26日(火)台風第28号が発生

11月の発生数は6個となり1964年、91年と並んで最多タイ記録。北日本太平洋側で晴れた他は湿った空気の影響で雲が広がりやすく、東日本太平洋側を中心に雨。愛媛県で震度4。



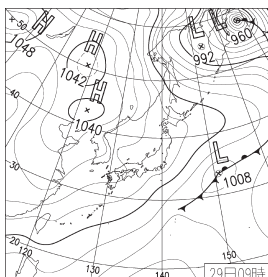
27日(水)北日本を寒冷前線通過

日本付近は気圧の谷となり、沖縄～東日本は曇りや雨。北日本は、午前中晴れた所も、午後には寒冷前線が通過して雨や雪に。仙台で初氷。神戸市、東京カエデ紅葉。



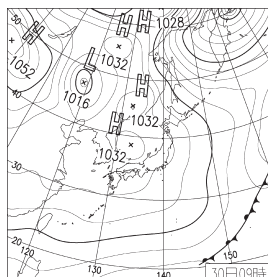
28日(木)長野と新潟で初雪

日本付近には強い寒気が入り、西～北日本の日本海側は所々で雨や雪。札幌は今季初の真冬日。本州の南を東進する低気圧の影響で、西～東日本太平洋側でも曇りや雨で雪の所も。



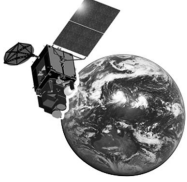
29日(金)各地で冷え込む

低気圧が日本の東海上に進んで、冬型の気圧配置に。山陰以北の日本海側は雪や雨。北海道陸別の最低気温-16.7℃など、全国的に冷え込み強まる。四国で初霜や初氷を観測。



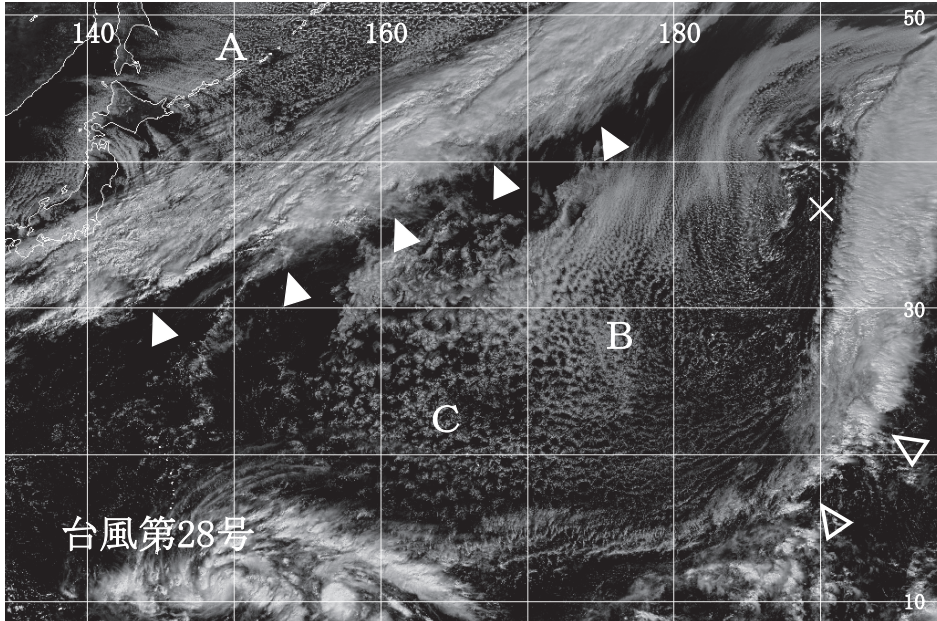
30日(土)冬型の気圧配置緩む

日本付近は冬型の気圧配置が次第に緩み、高気圧に覆われる。北陸以北の日本海側は曇りや雪。その他は晴れ。東京地方は2年続けて木枯らし1号なし。静岡で初霜。福島で初雪。



今月のひまわり画像—2019年11月

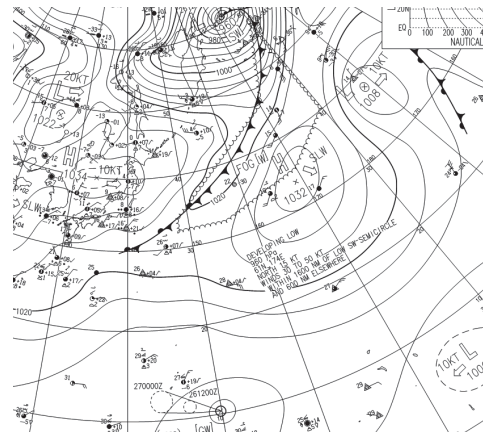
北西太平洋に出現した様々な雲域



第1図 2019年11月26日9時（日本時間）の北西太平洋の可視画像. 記号については本文を参照.

第1図は、2019年11月26日9時（日本時間）の北西太平洋の可視画像である。

ベーリング海に発達中の低気圧（第2図参照）があり、そこから日本の南にかけて、前線に対応する厚みのある雲域およびライン状の対流雲（図中白三角で示す）がのびている。オホーツク海には寒気が流入していることを示す筋状雲（図中A）が存在している。さらに、西経域にも低気圧対応の下層渦（図中白×印）があり、その南側には停滞前線に対応する雲バンド（図中白抜き三角で示す）がある。その西にはドーナツ状の雲域（図中B）が見られ、このような形状の雲塊はオープンセルと呼ばれる。Bの領域のさらに南西側（図中C）には、見た目が少し違う塊状の層積雲（Sc）が広がっている。このような多角形や塊状の雲が周辺部の晴天域で囲まれたセル状の雲をクローズドセルと呼ぶ。どちらの形状になるかは、寒気の強弱に関係する。このクローズドセルも高気圧性循環内に存在しており、寒気が弱まっている領域に対応していると見られる。26日9時初期値のGSM（気象庁全球モデル）では、



第2図 第1図と同時刻の地上天気図.

850hPaの気温9°C付近がオープンセルとクローズドセルの境界となっていた（図省略）。またC領域の南西には台風第28号の渦を巻いている積乱雲（Cb）域も見られ、雲域のバリエーションに富んだ1枚となった。

（気象庁予報部予報課 河野麻由可）